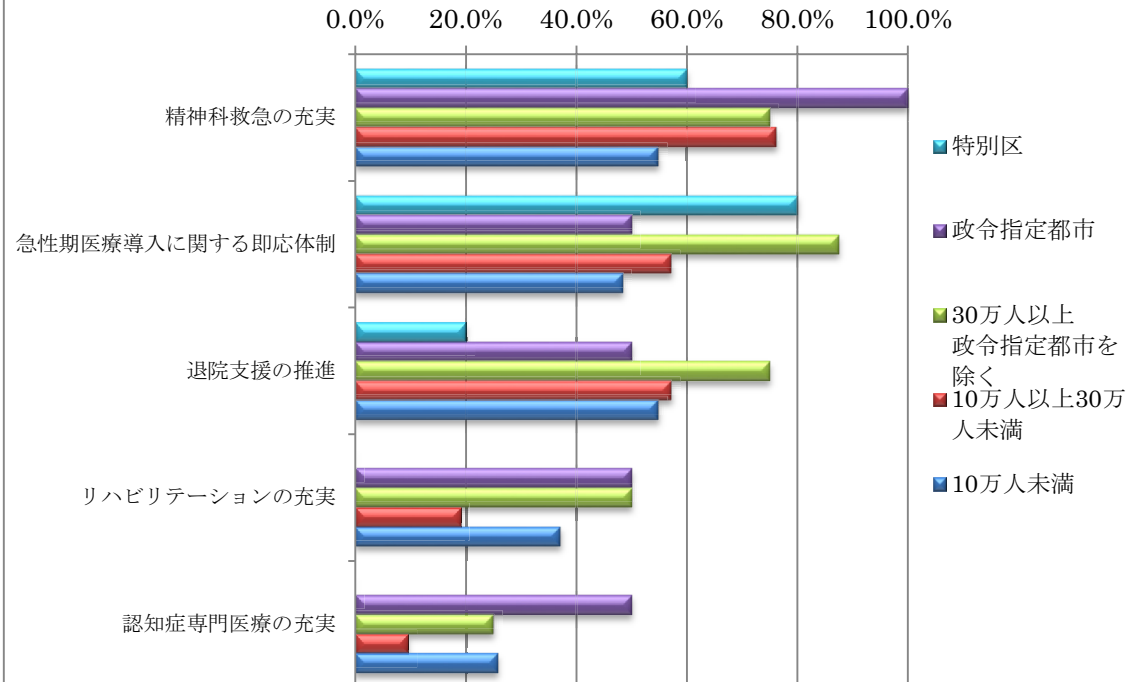
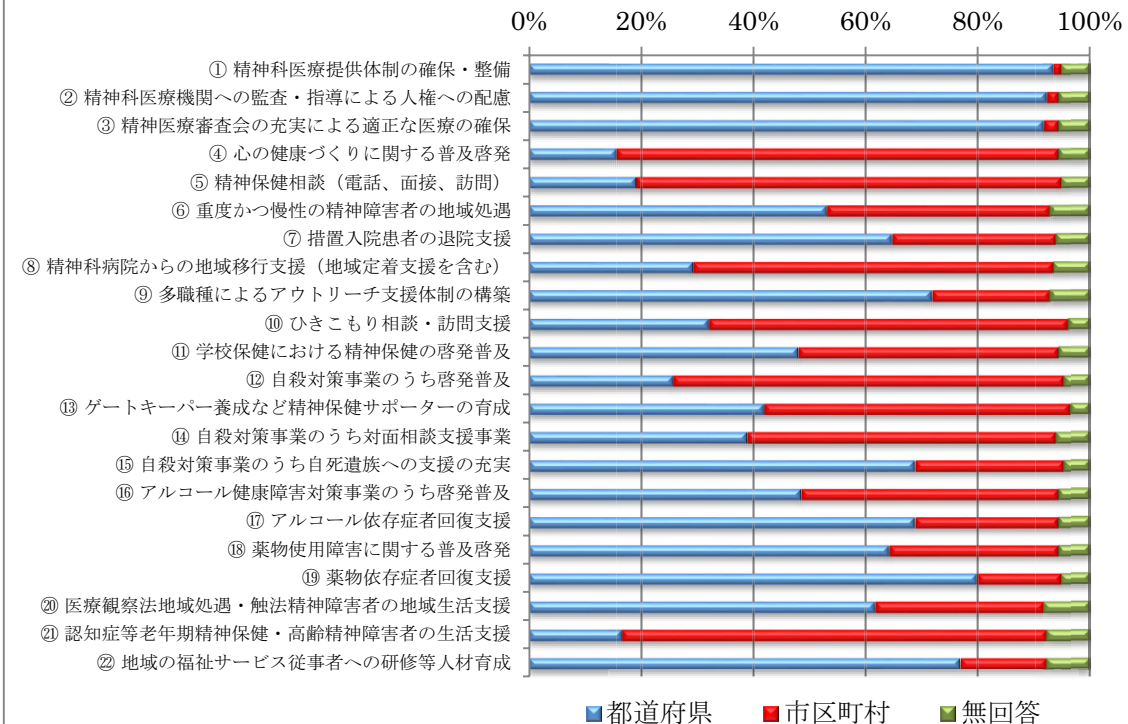


【市町村】Ⅳ 4 福祉保健共通 精神保健相談に関する対応の困難さ
(4) 困難さの軽減に必要な整備 - 精神科病院の機能分化



【市町村】Ⅳ 6 - (2) 今後の役割分担
主たる実施機関と考える機関



第3章 好 事 例

第3章 好事例（ベストプラクティス）

精神保健福祉実践のモデルとなる先進例としての好事例（ベストプラクティス）の調査は、予め選考基準を検討し、作成した質問紙調査票を基に、全国の精神保健福祉センター、関連する学会の理事らに対して、「精神障害者支援の好事例（ベストプラクティス）推薦のお願い」文書を送付し、その回答を基に必要な場合は、現地調査を実施しました。なお、本好事例は、先に世界心理社会的リハビリテーション学会から選ばれた日本の5か所の実践（帯広ケアセンター、やどかりの里、群馬境町の精神保健活動、JHC板橋、和歌山麦の郷）及び日本精神障害者リハビリテーション学会が選んだ6か所の実践（東京大学医学部附属病院リハビリテーション部精神科デイホスピタル、社会福祉法人豊芯会、社会福祉法人浦河べてるの家、特定非営利活動法人ふれあいセンター、医療法人万成病院障害福祉サービス事業所多機能型事業所ひまわり、市川コミュニティ精神保健医療福祉会議）の合わせた11か所を除きました。

全国各地からご推薦頂いた実践は、16か所ありました。書面調査にて、13か所を予め選定して平成27年2月から3月にかけて9名の検討委員・調査委員が手分けして現地調査を実施しました。その結果、12か所を好事例（ベストプラクティス）として選ばせて頂きました。なお、選考基準ではA+からDまでのランクつけで10項目、満点120点での素点をつけましたが、甲乙つけがたく、また必ずしも客観的ではないこともあり、ここではそうした順位つけはしていません。

以下、実践団体名（または施設名）を北から南への順（都道府県・政令市別）で紹介します。
（実践タイトルは目次で紹介）

1. ひきこもり・サポートネットにいがた（新潟）
2. 社会福祉法人巢立ち会（東京）
3. 北部地域リハビリテーションセンター（川崎）
4. 医療法人財団青山会こころの相談センター「チームブルー」（神奈川）
5. E-JAN（いいじゃん）（遠州精神保健福祉をすすめる市民の会）（浜松）
6. 社会福祉法人てりてりかんぱにい（京都）
7. 社会福祉法人 萌（奈良）
8. NPO法人岡山マインド「こころ」（岡山）
9. NPO法人ワークスみらい高知（高知）
10. ジョブサポートセンター八幡（北九州）
11. NPO法人チーム4×4（チーム・フォー・バイ・フォー）（長崎）
12. 株式会社アソシア（沖縄）

ベストプラクティス報告書

タイトル：つながる・ひろがる・ひきこもりネットワーク

副 題：ネットワークを大きな輪に

施設名(団体名)：ひきこもり・サポートネットにいがた

住 所：新潟市江南区五月町1-2-9

代表者名：三膳 克弥

団体種別：社会福祉法人・NPO法人・株式会社・その他（任意団体）

1 事業の対象者

今や全国で60万とも80万とも言われているひきこもりの社会問題化は新潟においても例外ではなく、数年前より市民団体等が中心になりながら、各種支援活動が展開されてきた。しかし、その全体的かつ総合的な支援体制は充分とは言えず、各団体の特性を生かし切れないまま各々の支援の隙間が生じているのが実体と言える。そのため、当事者や家族へのよりきめ細かな支援を図るため、有機的な連携体制を強く感じた。そこで、当事者と支援者が共に支え合いながら苦しさを乗り越え、社会参加しやすい環境をつくるため、ネットワークを設立することになった。

この趣旨に賛同する個人や団体を対象としている。個別相談を通してつながる場合もあれば、サポートネットワークが主催するイベントを通してつながる場合もある。

2 活動の内容と特徴

「みんなでひきこもりに悩む人を支え合い、社会参加しやすいネットワークをつくる」という理念のもとに活動をしている。

- ・相談・連携事業
- ・普及、啓発事業
- ・社会参加への環境づくり事業
- ・調査、研究事業

2カ月に1回の全体会を中心に各事業ごとにプロジェクトを開催し、イベントの企画や会報の発行などを実施している。

3 沿革

「不登校やひきこもりの当事者や家族支援のために、わたしたちがなにかできないのでしょうか？」と新潟市こころの健康センターの問いかけから始まりました。

ひきこもり関係団体が集まって、平成19年8月ごろに検討会議の準備会が発足しました。ひきこもり当事者や彼等をとりまく人たちの表現の場を作ろうではないかと支援団体や個人を巻き込んだ形で開催されたのが、「ひきこもりARTFORUM～はじめの一步展」でした。平成20年3月15日(土)に午前10時から午後8時まで新潟市民プラザ（NEXT21）で実施されました。

内容としては、

- ・展覧会「私のこころが話をしている、外にむかって・・・・」

ひきこもり経験者や、ひきこもっている人、その家族の作品の展示

- ・トーク&ミュージックライブ

ひきこもり当事者ところの病を抱えた者のみで構成される表現者集団【k-BOX】によるライブステージ

- ・関係団体の活動紹介ブース・相談コーナー

ひきこもりをテーマに活動している団体の紹介

- ・講演会&インタビュー形式によるセミナー

「ひきこもりからの回復～親たちの10のステップ・若者たちの10のステップ」

「もっと知りたい・聞いてみたい!～『ひきこもり』のあのこと、このこと」

- ・トークセッション

分科会・・・「ひきこもりの今」「ひきこもりの支援」「ひきこもりの未来」

パネルディスカッション・・・「これからのひきこもりを考えよう」

というものでした。

今後も同様な活動を継続していこうということになり、定期的に話し合いの場を設けてきました。回を重ねる毎に、悩み苦しんでいる人たちの姿が改めて浮き彫りにされてきて、支援ネットワークについての認識が高まった結果、平成22年8月に「ひきこもり・サポートネットにいがた」が立ち上がりました。当時は、ひきこもり支援センターがなかったのでネットワークを作るために民間団体が声を上げて動いていきました。

現在も全体会を2カ月に1回、定期的に会議を開催し、各団体の困りごとなどをネットワークを通して解決を図っていくという対応を継続している。例えば、ひきこもりはリバンドすることが多く社会に出たが戻ってくることもある。その場合、つまりいた場所に当事者が連絡を取ることができない場合などネットワークを通して調整し、お互いに連絡を取り合いながら丁寧につながり直すようにしている。また、ひきこもりの人は、なかなか歯医者もいかず、我慢していることが多い。ネットワークを通して、歯科医に訪問してもらい問診してもらった事例もある。

4 実績

ネットワークの団体がどういうことをしているのかなど関係機関の得手不得手を把握し活用することが、ひきこもりの当事者が一歩出ることに関与している。1つの団体では難しいことが、ネットワークを組むことによって可能になる場合もある。

例えば、「KHJ」で対応した当事者が一歩出られるようになり、サポートネットの中の「若者サポートステーション」を紹介した。さらに、ハローワークのパソコン教室につながった。その結果、現在は「KHJ」と「若者サポートステーション」と一緒に支援している。サポートネットの団体を通して別の団体とつながるなど支援の輪が広がっている。

5 組織体制や人材育成

- ・会員

正会員・・・・この会の目的に賛同して入会した個人または団体で、全体における議決権を有する。

賛助会員・・・・この会の目的に賛同して入会した個人または団体で、全体会における議決権を有しない。

オブザーバー・・・この会の目的に賛同して入会した個人または団体で、正式な発言権および

議決権は有しない。

- 運営委員会

本会の事業運営の企画・立案・推進・提案を担う。また、一般団体が活動しやすい環境を整えると同時に管理事務・会計業務を行う。(概ね5団体で構成する。個人参加も可能である。)

- 一般団体及び個人

全体会での決定事項を受け、各団体の特性を生かし、具体的な活動を行う。

- 本会は顧問を若干名置くことができる。顧問は運営委員会が任命するものとする。
- 運営委員会(個人)および事務局の選出全体会で協議し、多数決により決定する。
- 本会の運営委員会の任期は2年とする。但し、再任を妨げないものとする。
- 本会の会議は全体会と運営委員会とする。また、各事業によってプロジェクトチームを設け個別に会議を開く。
- 運営委員会は原則月1回定期開催する。必要に応じて臨時運営委員会を開くことができる。
- 全体会は年に原則4回開催され、運営委員会の提案を討議・承認する。必要に応じて臨時全体会を開くことができる。
- 本会の運営費は会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。

- 構成団体

- ① 正団体会員

NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」/NPO法人Az(自立支援ホーム「たいむ」)

NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク伴走舎/第一高等学院新潟校

NPO法人新潟県高度情報社会生活支援センター/自立支援の会G&T

NPO法人にいがた・オーティズム(地域活動支援センター「スタンバイ」)K-BOX

アーベルの会/通信制高校サポート校新潟中央学院/中島映像教材出版

新潟市発達障がい支援センターJOIN/新潟地域若者サポートステーション

新潟青陵大学「不登校・ひきこもり」研究会/寺小屋ありがとう/リラックス

特殊医療法人水明会 佐潟荘/新潟市ひきこもり相談支援センター

新潟大学社会連携研究センター/日本歯科大学ひきこもり支援チーム

- ② 個人会員

心理セラピスト 寺島幸優

- ③オブザーバー会員

新潟市こころの健康センター

6 活動の評価

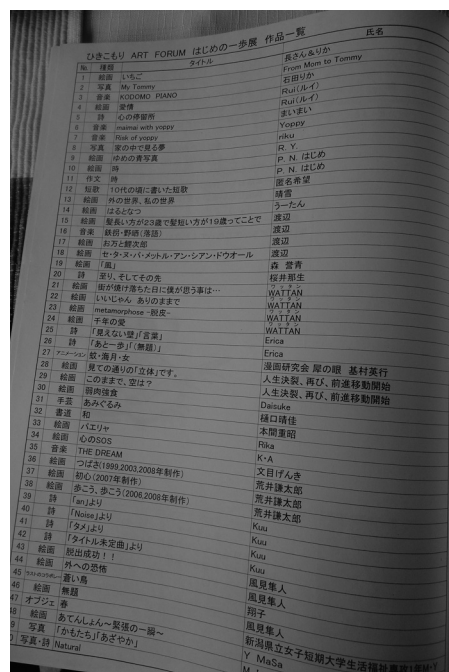
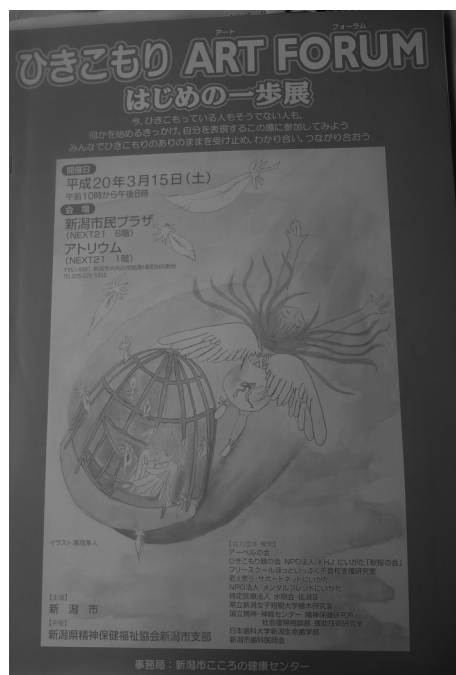
- 「ひきこもり」を軸に多角的にネットワークを構築している。そのネットワークは、行政機関、民間団体を始め関係団体はもちろんのこと、個人会員までつながっている。さらに映像会社など一般的な企業もかかわっている。
- 継続的な会議等により、モチベーションを維持しネットワークを継続している。
- ネットワークに属する団体の特性を把握し、当事者や家族にかかわる課題に役立てている。

7 今後の課題や抱負など

- 一歩も外へ出られない人をどのように把握し、支援していくのか。そのためにも、啓発活動を続けていくことが大切。親の立場として言えることは、「ひきこもり」の「ひ」の字だけでピンとくる。会や講演会に参加しようと思うが、どこにあるのかわからない。民間だけ

でなく行政の立場からも、啓発を進めてほしい。行政と関わりがあるということで参加する人の安心感につながることもある。行政にできないことを民間がやればいい。例えば、行政は休日・夜間の相談は難しく、担当者が変わってしまうことがあげられる。ひきこもりの場合、週末に父親がいることで当事者とぶつかり相談が必要になることもある。また、当事者は対人関係が苦手なので、担当者が変わってしまうとなかなかなじむことが難しい場合がある。

調査委員：（斎藤 秀一）
（中村 征人）



【はじめに】

『ひきこもり』という言葉が、使われるようになってからずいぶん経ちました。いわゆる「ニート」問題など、社会に生きづらさを感じる若者たちは、減る気配がありません。そのような中、現在ひきこもっている人、過去にひきこもった人、家族や友人、そして『ひきこもりってなに』という人……さまざまな人たちにとって「はじめの一步」となることを祈り、このイベントを企画しました。

【全体プログラム】

1階 アトリウム	時間	6階 市民プラザ
開会式開始 (10:00~20:00)	10:00	
トーク・ミュージックライブ part I 司会 Kacco、Red 演奏 K-BOX (10:00~11:00)		関係団体の活動紹介ブース・相談コーナー(開始)
	10:30	講演会・セミナー (10:30~17:00)
	11:00	「ひきこもりからの回復～頼りたの 10 のステップ」 著者たちの 10 のステップ 生田庄副院長 中垣内 正和氏 インタビュ形式によるセミナー 「もっと知りたい、聞いてみたい」 「ひきこもり」のあのこと、このこと 中垣内 正和氏 フリーアナウンサー 小野沢 裕子氏 (12:30~13:00)
トーク・ミュージックライブ part II (13:00~14:00)	12:30 13:00 14:00	関係団体の紹介タイム (12:30~13:00) トークセッション (14:00~16:00)
司会 Kacco、Red 演奏 K-BOX		コーディネーター 市嶋 彰氏 コメンテーター 中垣内 正和氏 ①オリエンテーション ②3つの分科会 A・ひきこもりの今 B・ひきこもりの支援 C・ひきこもりの未来 ③パネルディスカッション(全体会) 「これからのひきこもりを考えよう」 関係団体の活動紹介ブース・相談コーナー(終了)
閉会終了	16:00 17:00 20:00	

ベストプラクティス報告書

タイトル：長期入院者の退院・地域移行・定着支援とメンタルヘルスに不調を持つ人々への支援

副 題：リカバリー志向の地域実践

施設名(団体名)：社会福祉法人巣立ち会

住 所：東京都調布市小島町2-55-4

代表者名：田尾 有樹子

団体種別：社会福祉法人・NPO法人・株式会社・その他（ ）

1 対象

巣立ち会の活動は、精神科病院の長期入院者の退院・地域移行・定着支援活動から始まった。後で紹介する「巣立ち風」「巣立ち工房」「こひつじ舎」という通所事業所に通う8割以上が統合失調症である。しかし現在は広く心の病を持った人々への支援や精神疾患の早期支援による病状悪化の防止など実践の対象を拡大している。とりわけ、思春期に特化した支援やうつ病のリワーク支援などメンタルヘルスの今日的課題にも意欲的に取り組んでいる。

2 活動の内容と特徴

巣立ち会のスタートとなったミッションは、社会的入院の解消である。その根底には、社会的入院が重大な人権侵害であるという思いがある。病院のソーシャルワーカーであった現理事長の田尾有樹子は、20数年前を振り返って、こう話す。「精神科病院には、病状は安定して寛解状態であるにもかかわらず、戻るべき家族がいないとか、地域に生活の足場がないため、長期に入院している患者が大勢いました。この人たちが退院して地域で暮らせる仕組みを何とか創りたいと考えました」。掲げている主な理念は、エンパワメント（自尊心を持って生きる）、ピアサポート（助け合う仲間がいる）、リカバリー（病気や障害があっても、安心して生きがいを持って地域で生活できる）の3つである。最近ではイギリスからこの分野のリーダーであるジェフ・シェパードやジュリー・レバー氏を招聘しての講演会の開催や「リカバリーカレッジ」と呼ばれるところの元気回復市民講座を開催するなどとりわけリカバリーへの思いは強い。その結果もあると思われるが、ミッションも明らかに拡大している。今日では、社会的入院の解消だけではなく、広く心の病を持った人々への支援へと広がっているのが特徴である。

ここで、主な事業やプログラムや活動の内容を紹介する。第1に、通所事業所である。巣立ち会には、「巣立ち風」「巣立ち工房」「こひつじ舎」「シンフォニー」という4つの通所事業所がある。定員はそれぞれ20名から50名であるが、実際の利用者は4か所合わせて286名（2014年10月1日現在）おり、体験利用者を含めると310名と多い。「巣立ち風」と「巣立ち工房」は、三鷹市にあり、多機能（就労継続支援事業B型・自立訓練）の通所事業所で、利用者の平均年齢も50歳代で、単身者中心であることから約半数の人が生活保護を受給している。「こひつじ舎」は、西調布にあり、平均年齢は46.5歳と前二者よりはやや若い。「シンフォニー」は、調布市にあり、主に若者向けの認知行動療法やソーシャルスキルの学習など自立訓練を実施しており、平均年齢も28.6歳と若い。

第2に、居住支援活動である。先に紹介した通所事業所は、障害者総合支援法の下で全国に

続々と立ち上がっており、事業所数も多い。しかし、全国的に見れば居住支援は未だ弱く、巢立ち会の存在は群を抜いている。1992年、最初に立ち上げた「巢立ちホーム」から今日まで開設したグループホームは、8か所あり、合計87居室に67名が支援を受けながら暮らしている。また、グループホームではない民間アパートなどで暮らす42名にも支援をしており、合わせて109名（平成26年11月1日現在）の居住支援を展開している。

第3に、精神病性疾患の早期発見、早期支援の活動である。「Coler」と呼ばれるユースメンタルサポート活動を展開している。最近では、発病から治療につながるまでのタイムラグ（DUPと呼ばれる精神病未治療期間）が長ければ長いほど予後が不良であることが明らかにされ、出来るだけ早い段階から薬物療法とともに手厚い心理社会的支援の重要性が指摘されている。巢立ち会ではそのために精神病に苦しむ若者の早期発見、早期支援に取り組んでいる。具体的には就学や就労などの個別相談、家族支援、訪問相談、医療機関や役所での手続き、学校や職場への同行支援、生活リズムの改善やコミュニケーションの練習などのグループ支援、認知行動療法や集団心理療法、WRAP（元気回復行動プラン）、当事者研究など様々な展開をしている。

そして第4に、就労支援である。なかでも「ルボゼ」と呼ばれるうつ病専門の職場復帰支援（リワーク）・就労支援が行われている。ここでは、あくまで利用者本人のペースや希望に沿って利用期間を定めている。また、受け入れや開始時期に制限を設けず、速やかに利用が可能であること、かかりつけの医療機関を替える必要がない、充実したプログラムと柔軟な個別支援の体制、様々な社会資源や制度を活かしたサポート、離職者の就職活動・再就職の支援などを売りにしている。

このように、通所支援や居住支援や地域生活での相談活動を中心に全体の活動は展開されているが、若者や復職をめざすうつ病者にも就労支援活動が行われている。また、精神障害者の市民権の回復や権利擁護に熱心であり、かつ、市民の理解を得る活動も地道であるが展開している。

3 沿革

社会福祉法人巢立ち会は、1992年6月から調布市や三鷹市周辺の地域で始まった定員4名のグループホームや共同作業所づくりが始まりである。その後、2000年までに、巢立ち共同作業所、巢立ち工房、巢立ちホーム調布、巢立ちホーム調布第2、こひつじ舎を立ち上げ、2002年に社会福祉法人を取得している。その後も、グループホームや通所事業所を次々と立ち上げ、2005年位は、三鷹市から精神障がい者地域自立支援事業（ピアサポート事業）を受託、東京都からは精神障害者退院促進支援モデル事業を受託し、活動の根幹事業が形成されていった。2008年からは、特定相談支援事業「野の花」を設立し、その後、うつ病復職者支援「ルボゼ」の立ち上げ、早期介入・早期支援ユースメンタルサポート「COLOR」の立ち上げ、シンフォニーの竣工、こひつじ舎の新築・移転などで今日に至っている。

4 実績

今や、退院促進・地域移行・地域定着支援活動では、巢立ち会の存在はこの分野ではあまりにも有名である。巢立ち会のグループホームや通所事業所などを利用して退院した精神障害者は24年間で228名に及ぶ。これらの長期入院経験者は、共同生活援助（グループホーム）入居者の平均年齢が55.1歳となっており、通所事業では就労継続B型利用者が145名と中心的な事業であることがわかる。また、退院支援から現在まで継続利用している119名の調査では、平

均入院期間が11年11か月、その後の巣立ち会の利用平均が8年3か月で、その平均年齢は57.8歳となっている。男女別では、男性79名、女性40名で、103名（87%）が統合失調症の診断を受けている。グループホームでは、6か所が通過型（他の2か所は滞在型）であるために、グループホームから民間アパートへ移行していった利用者も多い。これらグループホームを卒業していくOBの支援も夕食会への参加、職場訪問やアパート訪問で継続している。

就労支援では「ルポゼ」の活動が実績を積み重ねている。平成26年11月20日現在の終了者総数87名の転機を見ると、復職52.8%（47名）、再就職30.3%（27名）と8割以上が就労復帰している。また、Colorの活動では、現在13歳から29歳までの44名の利用者があるが、これまで58名が終了している。利用者は三鷹、調布だけでなく周辺の市区町村からの利用者も半数以上いる。支援の中心は、就学や家族支援などであるが、都立高校（チャレンジスクール）を訪問し、スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、養護教諭とも連携している。

5 組織と人材育成

現在スタッフは73名（常勤29名、非常勤44名）である。常勤者の内訳は、精神保健福祉士が23名と一番多く、社会福祉士1名、臨床心理士1名、資格なしは3名などとなっている。非常勤者では、臨床心理士13名など専門職だけではなく、市民の感覚を活かした主婦や当事者スタッフもいる。また、サービス管理責任者が8名おり、法人全体の運営は理事会であるが、実務はサービス管理責任者が中核である。

研修や教育活動などにも熱心で、月1回の内部での勉強会、外部の研修会への派遣、講演会の実施など力を入れている。しかし、スタッフの9割が女性であり、出産、子育てと仕事の両立を環境的に整備していくことも課題と思われる。

6 活動の評価

巣立ち会は、発足以来、グループホームや通所事業（福祉的就労）を次々と立ち上げ、20年以上の歴史的蓄積があり、また最近では、若者支援やうつ病者の復職支援など将来も発展するモデルを間違いなく示している。なかでも最大の特色は、入院中心から地域生活中心への流れを促進する優れた実践であることにある。この基調にあるものは、生活の質や豊かさを求めているが、あくまでもお膳立てではなく、利用者の主体性を尊重した活動となっている。現在リカバリーの普及に力を入れていることからその精神を知ることができる。

行政との関わりや連携関係では、三鷹市、調布市及び東京都と深く結びついた連携を基に実施している。また、若年層の支援では高校など教育機関や医療機関との結びつきが良くてきている。

地域や市民との結びつきでは、三鷹や調布地域で、あらかじめ地主や大家さんの理解を得て、グループホーム専用設計してもらい建ててくれた物件を次々と賃貸契約していくなど地域の連携に強みを発揮している。

7 今後の課題

ここでは調査委員の立場から、期待と抱負を述べたい。まず、通所事業では、大半が就労継続B型であるが、製品加工だけではなく、その作業内容を農業や飲食産業にも広げてほしいと考えた。

グループホームはこのまま次々と立ち上げることで「ゲールの里親」ではないが、社会的入院者を受け入れた地域としての日本モデルを示すことができるのではないだろうか。

うつ病の復職支援や若者支援は社会的も関心と需要があり、今後も発展させていってほしい取り組みである。しかし、精神性疾患の早期発見・早期支援はまだ始まったばかりのところが多く手探り感もあるだけに、大学や医療機関との連携した研究的なプロジェクトの立ち上げも必要と考える。

最後に、地域との関係強化である。三鷹（人口18万人）や調布（人口22万人）は、比較的福祉資源がそろっていて住みやすい町と言われる。精神障害者が町で暮らすのは、「しっそりと棲む」という意味ではない。リカバリーした市民としての存在感ある豊かな暮らしの実現のために、今後も市民的権利の獲得に力を入れてほしい。巣立ち会は、今後も新しいメンタルヘルスの諸課題に挑戦しながら、自己完結型ではない広範な地域ネットワークのモデルを三鷹、調布地域で提供していくと思われる。

調査委員：（田中 英樹）

